

# 三菱シーケンサ

No. P L C - D - 2 7 5 - B ( 1 / 2 )

## テクニカルニュース

97年 9月11日

表 題 MELSEC-Aシリーズ SUMINETインタフェースユニット  
仕様変更(改善)のご連絡

適用機種 AJ71P41、ユーザーズマニュアル(IB(名)-68110)

三菱汎用シーケンサMELSEC-Aシリーズに格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

MELSEC-Aシリーズ SUMINETインタフェースユニットの仕様を変更致しましたので、その変更内容とマニュアルの改訂内容についてご連絡致します。

\* 仕様変更の対象ソフトウェアバージョンは、3.項によりご確認ください。

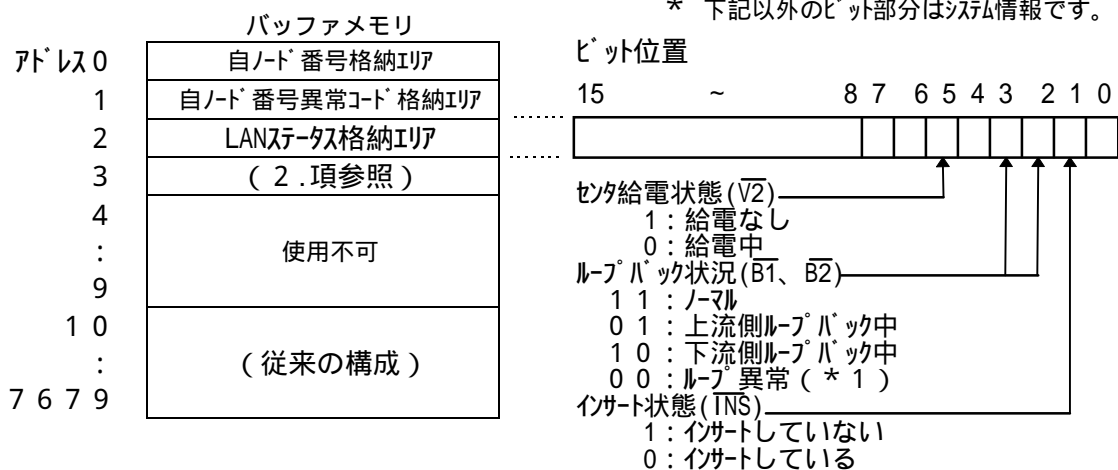
### 1.仕様変更 - 1 (ユーザーズマニュアル 3.9項に追加)

(1) SUMINETインタフェースユニットのソフトウェアバージョンが"J"版から、SUMINETのLANステータスがバッファメモリ(アドレス:2)に格納されます。

(2) ユニットへのセンタ給電状態、回線のループバック状況やインサート状況を確認するときに、バッファメモリを読み出してください。

(3) ユニットのLANステータスは、次のようにバッファメモリへ格納されます。

\* バッファメモリのアドレス:2、3以外は、従来と同じ構成です。



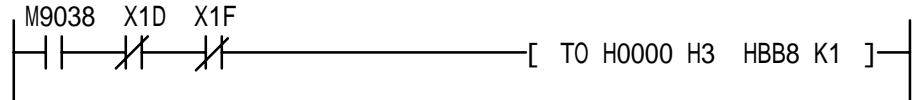
\* 1 ループバック状況( $\overline{B1}$ ,  $\overline{B2}$ )が"ループ異常"のときは、シーケンサCPUとの入出力信号のループ状態異常検出信号(X1D)がONします。  
ループ状態異常検出信号がOFF時のループバック状況は、上記バッファメモリを読み出して確認してください。

2.仕様変更 - 2 (ユーザマニュアル 3 . 9 項に追加)

( 1 ) S U M I N E T インタフェースユニットのソフトウェアバージョンが " K " 版から、相手ノードからのシーケンサCPU内データの読出し / 書込み交信において使用されるCPU監視タイマをユーザ設定できます。  
(バッファメモリ (アドレス : 3 ) で設定)

( 2 ) CPU監視タイマは、相手ノードからのデータ ( コマンド ) の受信により、シーケンサCPUへ読出し / 書込み要求してから結果を入力するまでの、シーケンサCPU側の動作を、SUMINETインタフェースユニットが監視する時間です。  
デフォルト値を変更するときは、SUMINETインタフェースユニット装着局シーケンサCPUの動作開始時 ( 特殊リレーM9038 : RUN後1スキャンON時 ) に変更値を書き込んでください。 ( 初期設定 )

( 例 ) 1スキャンループ WDT  
ON 異常 異常



( 3 ) CPU監視タイマ値は、0 H ~ F F F F H ( 0 ~ 6 5 5 3 5 ) で設定します。  
0 H : 無限待ち ( CPU監視時間なし )  
1 H ~ F F F F H : CPU監視時間 ( 設定値の単位 : 1 0 m s )  
\* デフォルト値 = 1 7 7 0 H ( 1 分 )

( 4 ) シーケンサCPU内データの読出し / 書込み交信時、CPU監視タイマエラーが発生したときは、交信要求の相手ノードへ次のレスポンスが返されます。

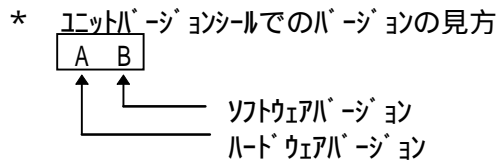
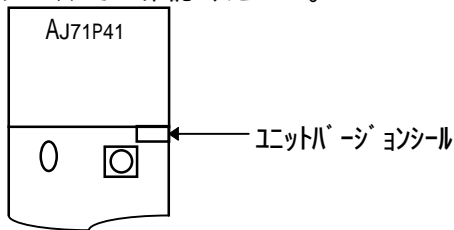
レスポンス		
サブヘッダ ( マニュアル参照 )	終了コード 5 B H	異常コード 1 1 H

相手ノードへ、終了コード = 5 B H、異常コード = 1 1 H が返されたときは、次の処置を行って、再度シーケンサCPU内データの読出し / 書込みを実行してください。 ( リトライ処理 )

- ・データの読出し / 書込み先シーケンサの状態、経由するMELSECNETのデータリンク状態を確認し、正常動作・正常交信の状態にする。
- ・CPU監視タイマの設定値を大きくする。 ( 調整 )

3.ユニットのバージョン確認方法

仕様変更されるユニットの対象バージョンは、ユニット正面のユニットバージョンシールでご確認ください。



上記シールの場合、ハードウェアバージョンが " A "、ソフトウェアバージョンが " B " であることを示しています。

以上